

# 消防団の現況について

## 1. 消防団とは

- ・消防団・・・消防組織法に基づき市町村が設ける消防機関
- ・消防団員・・・他に本業を持つ非常勤特別職の地方公務員  
※ ボランティア的な側面を併せ持つ。

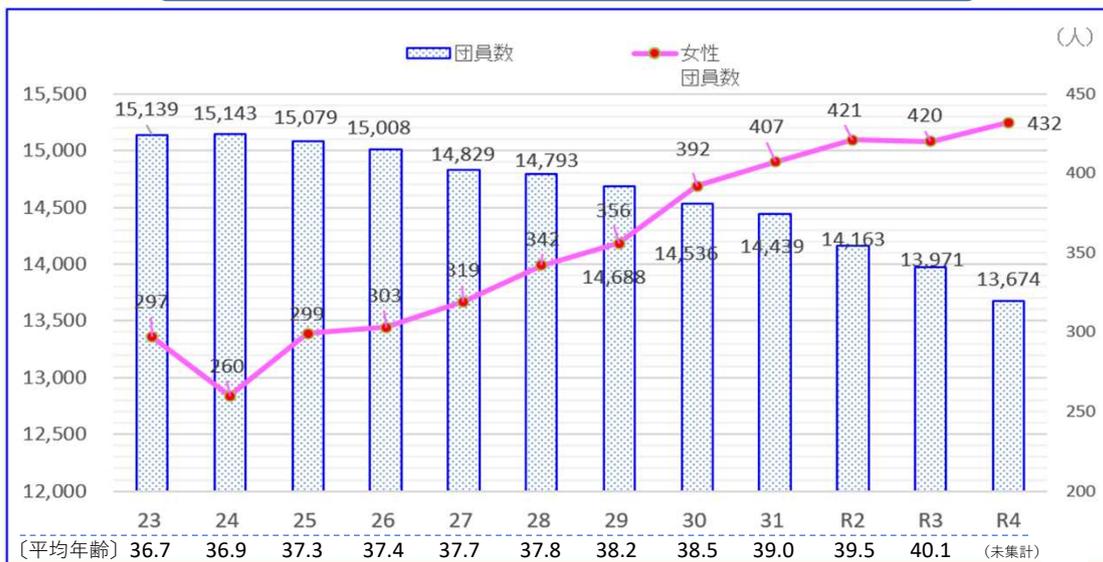
## 2. 消防団員数

- ・令和4年4月1日現在13,674名
- ※ 前年度比297名減少、10年前と比べ1,469名減少
- ※ 女性消防団員数は432名であり、堅調に推移
- ※ 令和3年4月1日現在の平均年齢は40.1歳で、10年前と比べ3.4歳上昇

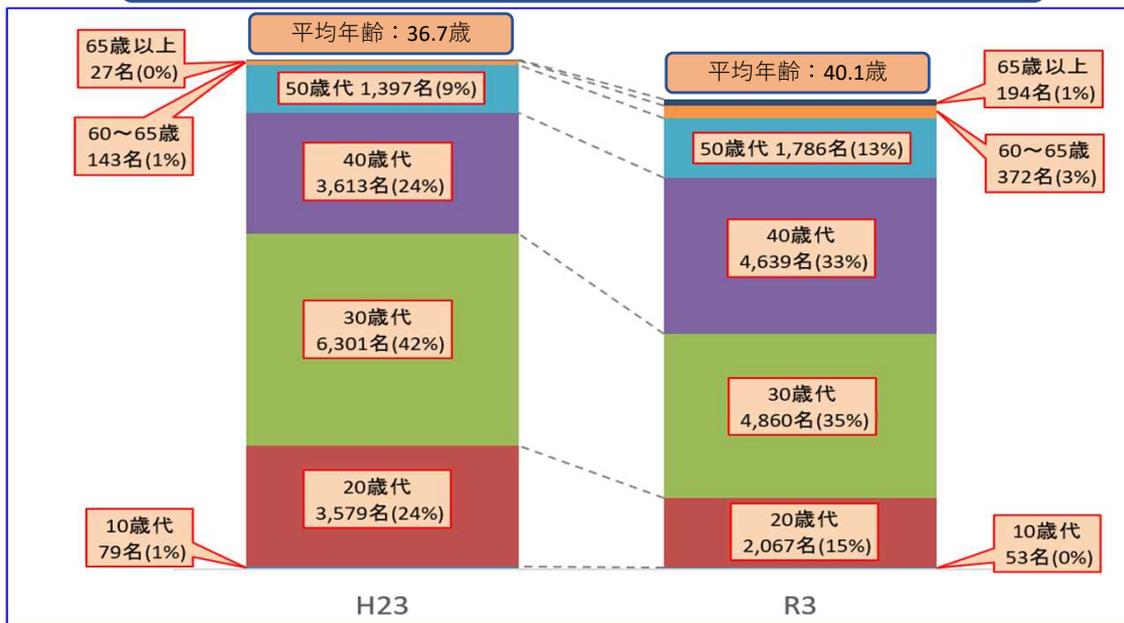
## 3. 消防団員の減少理由

- ・過疎化、高齢化の進行
- ・地域社会、就業構造、住民意識の変化 = 地域社会への帰属意識の希薄化
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う消防団PRイベントや個別訪問等消防団員募集活動の自粛

消防団員数の推移（各年4月1日現在）



消防団員の年齢階層別構成比較



## 4. 消防団の特性

### ① 地域密着性

構成員である団員は、地元の事情等に通じた地域住民である。

### ② 要員動員力

団員数は減少傾向にあるものの、なお消防職員の10倍以上（全国：約5倍）の人員を保有している。

※ 県内の消防職員数：1, 248名（令和4年4月1日現在）

### ③ 即時対応力

消防団員は日頃から訓練を行っており、災害発生時には即時に対応できる能力を保有している。

## 5. 消防団の活動

消防団は地域に密着した消防防災活動を展開

⇒ 地域における消防力・防災力の向上、地域コミュニティの活性化に大きな役割を果たしている。

### 〔活動例〕

- ・ 消火活動
- ・ 地震や風水害等多数の動員を必要とする大規模災害時の救助活動、避難誘導、災害防御活動
- ・ 地元自治会等との連携による住民への防火指導、巡回広報、特別警戒、応急手当指導等

### 《令和4年台風14号災害における消防団活動》

活動人員・・・延べ9, 550名（9月16日～10月9日）

活動内容・・・河川巡視、避難広報、高齢者の避難支援、土砂災害・浸水被害による避難誘導、被災者の捜索、冠水地区の排水活動、支援物品の搬送補助、交通規制・誘導補助、孤立集落内の傷病者へり搬送支援、被害状況確認、土砂・倒木・飛散物の除去、避難所運営支援、土嚢作成・運搬、断水に伴う広報活動、給水活動、twitterによる情報提供等、多岐にわたる活動を展開。



被災者捜索



倒木撤去



排水活動

県の展開する事業  
(令和3年度～令和5年度)

地域住民の安心・安全の確保

消防団活動の充実・強化

活動  
P  
R  
団員  
確保

みやざき消防団  
加入・定着促進  
事業

資  
機  
材  
整  
備

みやざき消防力  
強化・支援事業

技  
能  
向  
上  
士  
気  
高  
揚

みやざき消防団  
活動基盤確保  
事業

○ **みやざき消防団加入・定着促進事業**

- ・ 消防団員確保に係る意見交換会の開催
- ・ 女性消防団員活性化大会の開催
- ・ 消防団広報紙・加入促進パンフレット作成
- ・ 消防団等充実強化アドバイザーの講演

○ **みやざき消防力強化・支援事業**

- ・ 消防学校がれき救助訓練場の整備 (令和3年度事業)
- ・ 大規模災害対応のための資機材整備の支援

○ **みやざき消防団活動基盤確保事業**

- ・ 県消防操法大会、県消防大会等の開催